

令和4年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書(中間評価)

重点目標	具体的取り組み(主担当)	評価の観点	実現状況の達成度判断基準		判定	分析及び今後の課題(案)
1 指導力の向上	【ICT活用による授業改善】 タブレット端末を授業の充実のためのツールとして活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。 (教務課)	【努力指標】 タブレット端末を、授業の目的を達成するための手段として活用している。	タブレット端末を、授業の目標を達成するための手段として活用できたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	B	タブレット端末を授業の目標を達成するための手段として活用できたと感じる教員の割合は76%であった。授業の目標達成のために、タブレット端末が、「対話的な場面の設定」、「理解を促す手立て」、「教材準備の効率化」に活用できたことが成果として挙げられた。課題としては、生徒や教員の技能不足により、操作に時間を要することである。今後、GIGA スクール構想に向けた教員研修を活用しながら、タブレット端末活用の技能や指導力向上を図り、授業の目標達成につながる取り組みを進めていく。
	【取り組みの情報発信】 ICT活用や教科指導の取り組み等を、通信やホームページ等で定期的に発信し、家庭や地域に周知する。 (情報課)	【満足度指標】 授業や家庭学習等でのタブレット端末の活用が、児童生徒の学習の理解を進めるために効果があると感じられる。 (保護者アンケート)	授業参観やホームページにより学習の様子がわかり、タブレット端末を使った学習に効果があると感じる保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成		A
	【研修の充実】 ICT活用と新学習指導要領を踏まえた教科指導の充実のため、外部講師も活用して研修の充実に取り組む。 (研修研究課)	【成果指標】 研修での学びを授業に取り入れたり、講師の助言を参考に自分の授業を改善したりする。	研修での学びを授業に取り入れて、または助言を生かして授業改善ができた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A	学んだことを実践に結び付けられていないと感じる教員は少数いたが、研修での学びを授業に取り入れたり、講師の助言を生かして授業改善ができたりした教員の割合は91%となった。この結果より、授業改善をするうえで、研修や講師の助言が有効であると感じる職員が多いことがわかった。今後も学んだことを授業での実践につなげられる研修を充実させていく。
2 災害に備える	【危機管理体制の更新と防災教育の充実】 防災教育年間指導計画の見直しと更新を行い、系統的・計画的な防災教育に取り組む。 (学校安全課)	【成果指標】 発達段階に応じた防災教育を実施し、児童生徒の防災意識が高まったり、主体的に防災学習に取り組んだりしている。	児童生徒の防災意識がより高まり、主体的に防災学習に取り組むことができたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	D	防災教育や安全教育等を前期に2回以上取り組んだと回答した教員の割合は59%であり、判断基準の70%に到達できなかった。これは、防災教育の授業に直接携わっていない教員が1/3いたことで、結果として数値が下がったことが理由である。後期は、各部の防災・安全学習年間計画を参考に、授業だけでなく時機を捉えて子どもとの関わりの中での取り組みを推進していく。
		【満足度指標】 学校の防災教育への取り組みに満足している。	防災、安全教育の取り組みについて満足している保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 (保護者アンケート)	B以上で達成		A

令和4年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書(中間評価)

3	コロナ禍と生徒増を踏まえた体制整備	<p>【基本的な感染症対策の継続】 学部に応じた指導内容を定め、児童生徒が感染症について正しく理解し、予防に主体的に取り組む。 (保健体育課)</p>	<p>【満足度指標】 感染症について、児童生徒の発達段階に応じた指導を適切に行っている。</p>	児童生徒が感染症について正しく理解し、感染予防ができるよう継続した指導を行っている教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	B	各部に応じて設定した、感染症に関する指導内容の7割以上を継続して取り組んでいる教員は73%となった。小学部・中学部・高等部で共通して指導が十分でないのは、「感染症の理解」や「感染予防」に関する内容であった。各部会で中間評価アンケート結果を報告し、今後取り組んでほしい指導内容をあげて教員の意識を高めていきたい。
		<p>【行事等の工夫】 コロナ禍での儀式的・体育的・文化的行事を、実情に合わせて工夫して行う。 (生徒課)(総務課)</p>	<p>【努力指標】 コロナに対応して行事の実施方法や会場等について課題を整理し、工夫して実施する。</p>	行事の実施についてコロナに対応した課題の整理や工夫ができたと感じた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A	コロナ禍での行事について、工夫して実施した教員の割合は96%であった。全校行事である運動会や始業式・終業式、また、各部行事において、時間差開催やリモート実施など、密集・密接を防ぐ工夫が随所でなされた。今後もコロナウイルス感染の状況の変化に対応しながら、コロナに対応した課題を整理し、後期にある全校行事(学校祭・卒業式)や各部行事等の実施に生かしていく。
4	業務の改善	<p>【業務の効率化】 業務について課題を整理し、ICT活用を図りながら課の実情に応じた課題解決を目指し、業務の効率化に取り組む。 (教頭)(各課)</p>	<p>【成果目標】 各課の課題を整理し、業務の効率化、改善に向けて目標を設定して取り組む。</p>	業務の効率化、改善に向け各課の実情に応じた目標を設定し、改善を図ることができた課の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	B	校務分掌の課のうち78%が業務改善を図っているという回答であった。目標には、文書作成の効率化、課ハンドブックの見直し、保護者への配付物の回数減、会議の回数減等が挙げられた。文書作成ツールの機能やアンケート作成ツールを使うことで、書類作成時のミスを防いだり、調査の実施・回収・データ活用をスムーズに行ったりすることができ、成果に結びついている。課ハンドブックの見直しや業務分担にも随時取り組み、次年度に向けて業務内容の明確化や軽減を図っていく。